

ショートコメント vol.141 (2019年5月29日)

テーマ：2019年の大阪の人口移動

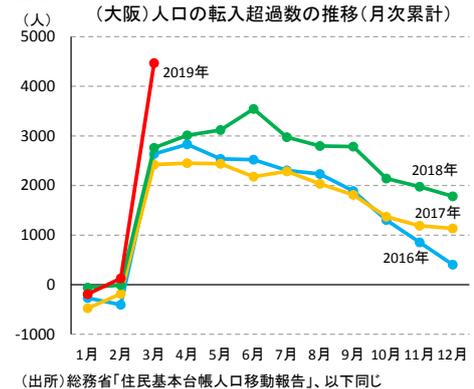
～1～3月は近年で最大の転入超過数～

●19年1～3月の人口移動

大阪の2019年1～3月の人口移動（外国人を含む）をみると、近年を大きく上回る推移となっている。

図表1は人口の転入超過数につき、月次累計の動きをみたものであるが、3月の時点で2019年は4千人を超えており、2016～18年の2千人台を大きく上回っている。グラフの形状が示すように、年間の人口移動において、3月は非常に大きな意味を持つ。3月のプラスが大きければ大きいほど、年間トータルの転入超過数も大きくなる。2019年の大阪の好調な動きも、まさに3月の転入超過の増加によるものに他ならない。

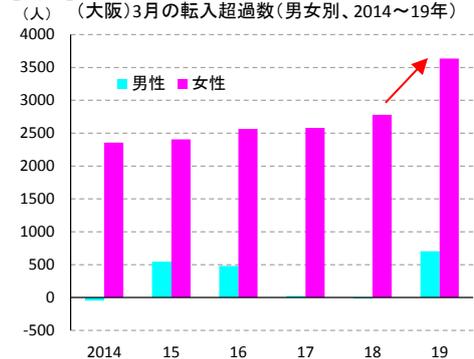
【図表1】



●カギを握る20代、30代の動き

19年3月の大阪の動きをみると、男性、女性ともに転入超過数が増えているが、特に女性の増加が目立つ(図表2)。もともと女性の方が転入超過数は多い傾向にあるが、19年はさらに女性の転入超過が増えた。一方、年齢層別にみると、男性の動きにも大きな変化がみられる。

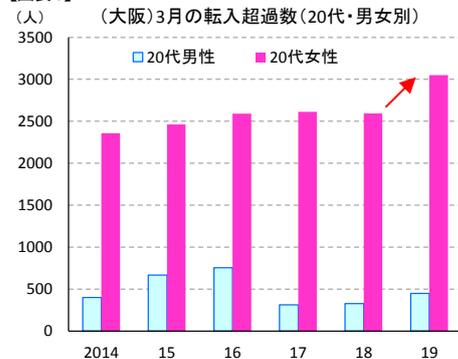
【図表2】



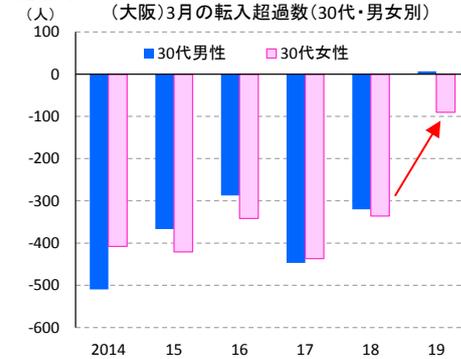
これまで3月の転入超過を支えてきたのは、20代の女性であった。つまり、就職をきっかけにした女性の動きが中心であったが、19年はそれに30代の男性および女性の増加も重なっている(図表3、4)。30代の転入が増えた要因は特定が難しいが、企業の内部異動などに伴う動きが想定される。インバウンド市場の拡大などに対応したものともみられるが、それとは別に、万博等に向けた動きが徐々に出てきたとの見方もできよう。

東京五輪の開催は来夏であるが、その準備作業は峠を越えたとされている。その一方、大阪では万博等に向けた新たな建設需要も出てくることから、各社が大阪へと人員配置をシフトし始めた可能性はあろう。

【図表3】



【図表4】



※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点のものであり、今後予告なしに変更されることがあります。

●人口移動の要因の変化

3月の動きについて、大阪と愛知を比べると、18年に続いて大阪が上回っている（図表5）。愛知は長らく大阪よりも人口移動の面では優位に立ってきたが、19年は大阪が2千人近く上回るなど、近年にない差がついた。

これが示唆するのは、人口移動の要因の変化である。かつては愛知が好調であったように、製造業が人口の吸引に大きく貢献してきた。特に自動車産業はその中心となってきたが、近年は製造業による人口吸引力が低下しつつある。

代わって伸びてきたのが、観光やサービス関連であり、今後はITや人口知能（AI）といった新たな産業がその役割を担うことが予想される。近年の関西はインバウンド市場の拡大が続くなかで、関連産業の活況につながり、人口面にもプラスに作用したと考えられよう。

人口といえば、長らく大阪にとって大きな泣き所の一つであったが、今年の動きをみる限り、徐々に強みに変わりつつあるといえるのではないかと。

【図表5】 3月の転入超過数の推移（大阪、愛知）



本件照会先：大阪本社 荒木秀之
TEL:070-6633-0038 mail:hd-araki@rri.co.jp

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点のものであり、今後予告なしに変更されることがあります。